

西宮市の特性

■ 面積

本市の母体である西宮町は、大正14年4月市制を施行し、周辺の町村との合併や、昭和40年代から始まる臨海部の埋め立て等により市域を拡大し、現在の面積は99.87km²となっている。

■ 地形

市域は、南北19.1km、東西13.8kmにわたり、ひょうたん型に広がっている。市域の中央部には東六甲山系に属する山地が東西に横断し、南部は5.5kmにわたって大阪湾に面しているため、海拔0mから900mにいたる起伏と変化にとんだ地形となっている。

■ 地質

地質系統は、中生代の六甲花崗岩及び石英粗面岩類の古い系統と、新生代における神戸層群、大阪層群、段丘れき層及び沖積層といった比較的新しい系統の2つに大きくわけることができる。

太多田川から北部一帯は主として石英粗面岩類からなり、山口町と塩瀬町の一部では泥岩、砂岩、れき岩からなる神戸層岩で覆われている。

南部の市街地は、花崗岩の風化作用と河川の浸食作用によって、六甲山地の土砂が多量に下流に運ばれ、堆積してできた沖積層のデルタの上に形成されている。

■ 人口

西宮市の人口の推移をみると、昭和30年代に急激に増加したが、昭和40年代にやや緩やかな増加となり、昭和50年代以降は横ばい傾向にあり、平成7年1月現在の市域の人口は42万4千人であったが、震災1年後の平成8年1月の人口は、39万人となった。

図1 人口の推移

